

浪速区医師会五十年の軌跡

木下爲弘

浪速区医師会(以下 [浪医]が、産声をあげて五十年が経ちました。その過去を振り返った時、色々の事象が出て来て何から書けばいいか迷っています。

(A) 浪速区の誕生

浪速区は大阪市のほぼ中央部のやや南に位置し、東西に長く南北に少し短くてその面積は現在 4.37Km² (以前 3.83Km²) です。

浪速区を考える場合、四天王寺の歴史を振り返る必要があります。四天王寺は西暦 587 年、今の玉造あたりに創建され、その後、西暦 593 年今のところへ建立されました。その当時の海岸線は恐らく上町台地の西側、今の松屋町筋あたりと云われています。その後、西へ西へと海岸線は延びて、西暦 1274 年、今宮村、木津村、難波村と名付けられ、西暦 1274 年から西暦 1457 年の 183 年程の間に今の浪速区の土地が形成されたと云われています。

明治に入り、22 年市制改革で大阪市が東西南北の四区に分けられました。明治 31 年の第一次市域拡張で先の今宮村、木津村、難波村の殆どが編入され、大正 14 年 4 月の第二次市域拡張で大阪市は新たに行政区画を 13 区(西成区、阿倍野区、住吉区、東住吉区、生野区、東成区、城東区、

旭区、都島区、大淀区、東淀川区、西淀川区、南区)に分けた際、南区より分区して第一次浪速区として発足しました。



日本橋筋は南区の突出部として残され、千日前、河原一丁目等は浪速区の区域でした。昭和 18 年 4 月 1 日、22 区制がとられた際は、西区の道頓堀川以南、南区市電河原町と日本橋三の線以南、天王寺区松屋町筋以西、西成区関西線南側以北の一部を入れると共に市電河原町以北を南区へ、天王寺公園以東を天王寺区へ編入し、現在の区域の第 2 次浪速区が誕生しました。

浪速区は古くより堺、和泉、和歌山方面への交通路にあたり、商工業地帯として繁栄してきました、当区は大阪の近代工業の起こった所で清酒、鉄鋼、皮革、タバコ、マッチ等の製造加工産業は当区から芽生えたと云われています。卸売業も盛んで、永い歴史を持つ私設木津市場、日本橋筋の電気器具街、御蔵跡町の履物問屋街などが有名です。又、市域の拡張に伴い、明治 36 年、第五回内国観業博覧会が浪速区と天王寺区の接する 10 万坪



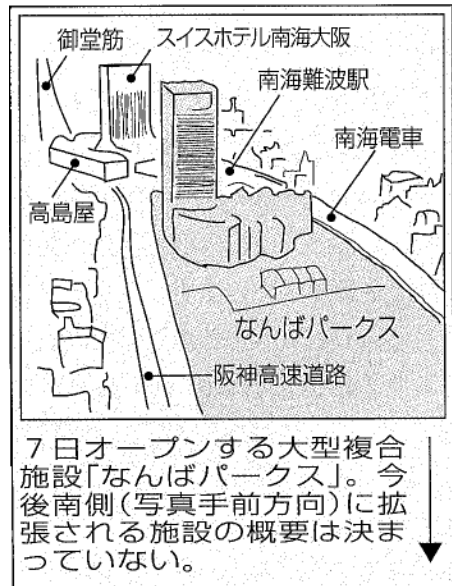
の土地を中心に盛大に開かれ、その跡地を明治42年東側の1/2を天王寺公園に、西の2万8千坪は大阪土地建物K.Kが経営し、新世界として開発しました。その中央に高さ75mの通

天閣(ライオン歯磨きのイルミネーション)が作られました。太平洋戦争中金属回収令で抛出されました。しかし、戦後昭和31年、地元の有力者の力で103mの高さで通天閣は再建されたのです。又、大相撲の三月場所になっている府立体育館(なんば)、十日戎で賑わう今宮神社の歴史、については創立40周年記念講演に宮司津江孝夫氏がすでに述べておられますが、簡単に要約して更に残しておきたいと思います。先に述べましたが、四天王寺は今から1422年前の西暦593年に今の処に創建されました。その周りに守り神の神社が四天王寺七宮として建てられ現存している河堀神社(寺田町)、堀越神社(茶臼山)、大江神社(愛染さんの西側)、久保神社(四天王寺東門)、上之宮(上宮公園あたり)、土塔の宮(四天王寺境内の南側)、小儀と云うお社でこれで七宮ですが、地図上で見ますと丁度星の5つの頂点を

結んだ所に七宮が存在しているのも深い理由があるのでしょうか。今宮戎神社は明治維新までは四天王寺西門に「浜の市」と云う市が立ってイまして、その為には慣習として必ず「市神様」のお祭りをしてから市が立つ訳で、その市神に「えべっさん」が祭られている事から「今宮えべっさん」の神様は商売繁盛の神様と云われて現在まで続いております。この今宮神社以外では綱曳神事で有名な八坂神社、鉄眼寺、大国神社 etc、由緒ある神社仏閣が多くあります。又、この10年程の間に以下のような地区の開発が次々に行われました。

1) 湊町地区開発

平成6年9月、関西国際空港が開港、それに伴い国際来客都市大阪の玄関口に「大阪シティエアターミナル」(OCAT)



が完成し、又、平成 14 年 7 月には湊町リバープレイスがオープンしました。

2) 難波地区開発

平成元年 7 月「難波地区開発協議会」が発足され、バブルが崩壊し紆余曲折がありました。平成 15 年 10 月 7 日「なんばパークス」(第一期工事)が誕生しました。これは南海電気鉄道の大型複合施設で、難波の旧大阪球場(昭和 25 年に建設されたプロ野球パリーグ公式戦球場で、南海ホークスの本拠地であったが、昭和 63 年閉場となった)の跡地に建設されました。「なんばパークス」には南海ホークスの活躍の足跡を紹介するメモリアルギャラリーが設置されています。地上 30 階の「パークスタワー」にはビジネスの拠点として 105 店舗が入り、又緑あふれる屋上公園「パークスガーデン」が併設され、1 万平方メートルの面積に 235 種、一万株の樹木、草花が植えられ、癒しの場所を提供しています。近い将来高島屋が入居する商業施設(第二期)とオフィスビル(第三期)が順次拡張施設される予定です。

尚、浪速区に終点を持ち、国際集客都市大阪の「ゲートシティ」の中核となる南海鉄道の歴史にも少し触れておきます。明治 18 年(1885)12 月 27 日我国初めての民間資本による鉄道(阪堺鉄道)が難波から大和川北岸に開通し、一方、堺と和歌山を結ぶ紀泉鉄道と紀阪鉄道が合併して南海鉄道となり、阪堺鉄道の事業を譲り

受け、明治 36 年 3 月、難波～和歌山市間が全通し、その後、高野大師鉄道、阪堺電気軌道と合併し、大正 4 年までに今の南海の路線が形成されました。昭和 7 年(1932)には難波ターミナルにデパート高島屋がオープンしました。

3) 霞町車庫跡地開発

平成 9 年(1997)7 月には屋内型遊園地フェスティバルゲートがオープンしました。

4) 区役所・保健福祉センターの合同庁舎が平成 T4 年 6 月に完成しました。今、浪速区は平成 12 年の国勢調査によりますと総人口は 50,189 名です。その推移を表 1 に示します。

表 1. 浪速区総人口の推移

昭和 1 5 年	16,363 名
昭和 2 2 年	21,135 名
昭和 2 5 年	43,050 名
昭和 3 0 年	70,827 名
昭和 4 0 年	77,867 名
昭和 4 5 年	65,746 名
昭和 5 0 年	55,725 名
昭和 5 5 年	60,104 名
昭和 6 0 年	49,072 名
平成元年	49,079 名
平成 5 年	48,084 名
平成 7 年	49,017 名
平成 1 2 年	50,189 名

(B)浪速区医師会の歩み

1)医師会の発足

大阪府医師史によると、昭和20年以前には浪速区医師会としての名はなく、敗戦によって旧医師会組織は解体され、昭和22年11月1日に新生社団法人大阪府医師会が設立され、同時に社団法人浪速区医師会も昭和22年11月25日に郡市区医師会の一員として発足しました。当時、
会長 本田正夫、副会長 佐藤徠作、
理事 小川喜代志、森沢誠一、犬塚厚生、
会員数は21名でした。

医師会事務所は浪速区船出町2-22「久保田鉄工所医局」にありました。その後、会長は2代目佐藤徠作、3代目森沢誠一、4代目宮原 昭、5代目遠藤秀雄と受け継がれていましたが、昭和28年遠藤会長時代に参議院選挙からんで不協和音が発生し、医師会は分裂して昭和28年7月10日解散となりました。しかし会員等の努力で昭和28年12月24日、新制社団法人浪速区医師会が発足し、この日をもって創立日となったのです。

当時の役員、会員名を列記しますと、
役員

会 長 上原正成

副会長 中山元雄

理 事 庄司静枝、織田 勇、麻生敏雄、

議 長 宮原 昭

会 員 大西哲也、片岡茂和、片岡唐麿、

国政来診、山田 学、安原 譲、
東 幹、島田甚晴、向井 泰、
谷村久康、犬塚厚生、西川爲雄、
原田龍男、川合弘一、里見恭一郎、
山本喜代子、森 正子、菅 楠太、
西條良次、本田正夫、井上頼重、
入野静喜、山本文子、鈴木時之助、
池田良吉、上原正員、樽本貞彦、
林 寅楠、岡 恒喜、岡本孝子、
和田長作、上出 巖、松本安太郎、
有田 満、浅井東一、末包幹夫、
塙平豊市、小川喜代志、野口半兵衛、
春藤照繁、難波龍也、大谷廉、
の計48名でした。

その後の浪速区医師会A会員の変遷は表2のごとくです。

表2. 浪速区医師会A会員数及び年齢構成の変遷

年齢階層	調 査 時 期		
	昭和55年6月	平成5年6月	平成15年10月
30才台	3人	4人	7人
40才台	5人	10人	15人
50才台	25人	14人	17人
60才台	9人	27人	12人
70才台	10人	11人	16人
合 計	52人	66人	67人
平均年齢	57.7歳	60.5歳	57.8歳

浪速区医師会の歴代会長と大阪府医師会長、日本医師会会長を年代順に列挙しますと表3のとおりです。

表3. 歴代の浪速区医師会、大阪府医師会、日本医師会の各会長

	浪速区医師会	大阪府医師会長	日本医師会長
昭和 28 年 11 月	初代会長 上原正成	井関建夫	田宮猛雄
昭和 29 年 4 月	2 代会長 犬塚厚生		黒沢潤三
S29. 4～39. 3	川合弘一(府医理事)		
S31. 4～37. 3	川合弘一(日医代議員)		
昭和 30 年 10 月			小畑惟清
昭和 31 年 3 月		行岡忠雄	
昭和 31 年 7 月	3 代会長 浅井東一		
昭和 32 年 4 月			武見太郎
昭和 32 年 5 月		藤原 哲	
昭和 33 年 1 月	4 代会長 犬塚厚生		
S37. 3～42. 3	川合弘一(日医理事)		
昭和 39 年 3 月		宇野菊三郎	
昭和 42 年 6 月	5 代会長 中山元雄		
昭和 44 年 3 月		中村安治郎	
昭和 45 年 4 月	6 代会長 川合弘一		
S45. 4～47. 3	川田義男(府医理事)		
昭和 47 年 3 月		山口正民	
昭和 47 年 4 月	7 代会長 落合政明		
昭和 53 年 4 月	8 代会長 川田義男		
昭和 57 年 4 月		稲葉 博	花岡堅而
S57. 4～61. 3	竹中秀裕(府医理事)		
昭和 59 年 4 月			羽田春免
昭和 61 年 4 月	9 代会長 木下爲弘	杉本宗雄	
平成 2 年 4 月		植松治雄	
H2. 4～16. 3	竹中秀裕(府医理事)		
平成 4 年 4 月			村瀬敏郎
平成 6 年 4 月	10 代会長 徳田 修		
平成 8 年 4 月			坪井栄孝
平成 16 年 4 月	11 代会長 竹中秀裕	酒井国男	植松治雄

(敬称略)

2) 医師会活動の歴史

(a) 浪速保健所との関係

医師会が対外的に活動し、行政と協力した拠点は浪速保健所であり、保健所と共に発展したものと考えられるので、保健所の変遷を知る事も亦、医師会の歴史を考える上で大切な事でしょう。

昭和 19 年 1 月 最初の浪速保健所創設
(大阪市浪速区塩草町 1168 番地)

昭和 19 年 3 月 浪速区宮津町 76 番地に
移転 昭和 20 年 8 月 戦災により
閉鎖。西成区梅通 2-3 番地の西成
保健所に合併

昭和 20 年 10 月 天王寺保健所西成浪速
支所と名称変更

昭和 22 年 3 月 浪速区敷津町旧浪速区
役所跡に移転

昭和 22 年 6 月 西成保健所浪速支所
支所長 岡邨一男

昭和 23 年 6 月 新保健所法が法律 101
号により施行

昭和 26 年 3 月 結核予防法施行
昭和 26 年 7 月南保健所浪速支所と
なる。

支所長 小林 登

昭和 26 年 11 月 結核審査協議会出来る。

昭和 30 年 4 月 浪速区宮津町 76 番地に
増改築されて移転する。浪速保健所
として昇格

所長 久保田 勉

昭和 30 年 11 月 運営協議会委員長に
犬塚厚生氏

昭和 37 年 5 月 浪速区船出町 1-8
新庁舎に移転

昭和 42 年 8 月 運営協議会委員長
中山元雄氏

昭和 43 年 7 月 43 年度までは事業報告は
「保健所事業概要」44 年度からは
「保健所の歩み」となり現在に至る

昭和 44 年 1 月 “すこやか” 第一号発刊

昭和 60 年 3 月 第一回浪速区健康展
以後毎年協賛し現在に至る

平成 12 年 4 月 大阪市浪速保健所から
大阪市浪速保健福祉センターに改名

平成 14 年 6 月 浪速区役所との合同庁
舎が完成し、移転。

(b) 各種委員会への出務

保健所と医師会は常に協調協力し合っ
て 1 年に 1 回は六者(浪速保健センター、
福祉事務所、老人福祉センター、区役所、
社会福祉協議会、医師会)懇親会を行い、
意思の疎通と協力関係を保っています。

また、医師会は以下のような各種委員
会にも委員を送っています。

①浪速保健センター推進協議会(旧運営
協議会)委員長

②浪速区公衆衛生協会会長

③浪速区老人保健推進協議会会長

④浪速区ねたきり予防推進協議会「あす
なる会」顧問

⑤結核診査委員、など

(c) なにわ保健センター附属診療所
設立の後先は四十周年記念誌に前田

成納先生が縷々書いておられるので省きますが、当時 山口正民府医師会長は長い間浪速区に設立されていた大阪府医師会准看護学校が移転するのに伴い、その跡地の事は先ず浪速区医師会が考えるべきだと云って下さったのですが、当時の川合会長は色々と考えられて、譲られたと聞きました。

その後、今の老人福祉センターの南東端に 50 坪の空地が候補に上がりましたが、東に寄りすぎていると断り、その後の発展は四十周年誌に書かれた通りです。

なにわ保健センター附属診療所ではエルゴメーターやトレッドミルで心肺機能を検べ、医師及びトレーナーの吉井孝彰、阪本薫を中心に運動療法を行って現在に至っています。

糖尿病の運動療法が社会保険で認められ、学会等では高血圧症の治療、心筋梗塞治療後の運動療法の必要性が云われましたので、当センターでも当時大阪市立大学、前田如矢教授をお招きしてご指導を受けました。その後保険でも認められるようになった次第です。

(d) 学術活動

日本医師会会長武見太郎氏は、医師会は「学術専門団体」とであると述べ、常に我々に勉強の必要性を説いて来られました。「区医だより」の 1/3 の頁は学術に関する記事で埋まっています。

会員の富永紳介君は平成 4 年 10 月号に“Ancoraimparo” (Michelangelo Buonarriti)、即ち「私は今も勉強している」というミケランジェロ氏の言葉を、平成 5 年 10 月号には“Crescat scientia vita excolatur” - 「人生をより幸せにするのに、知識の向上に努めよ」- と、常に私達に勉強の必要性を説いておられます。

○勉強会

医師会ではつとに勉強会を実施。殊に ECG に関しては昭和 47 年より石川兵衛先生(当時奈良医大第一内科助教授)より学生の間で赤本と云われた教材を頂いて約 1 年間、又、昭和 55 年 2 月より不定期ではありましたが「心電図の A、B、C、」の著者、和田敬先生(当時国際親善病院内科顧問)に薫陶をうけました。又、昭和 56 年 8 月～平成元年 10 月まで国立循環器病センター内科佐藤磐男先生に ECG の基礎から臨床までを教えられました。次いで平成元年 11 月より国立循環器病センター内科相原直彦先生に ECG を中心に現在も学んでいます。その間各科に亘る勉強会も定期的に行っています。

○区内児童血圧測定

昭和 63 年、平成元年、平成 2 年と 3 年に亘り区内小生 4 年、5 年、6 年生の血圧測を実施。肥満児の血圧、家族歴と血圧について比較検討しました。その結果は第 13 回大阪府医師会医

学総会と第12回日本プライマリケア学会に発表しました。

○愛染橋病院医局臨床講演会

昭和59年1月より開業医の先生方と共に学ぶ勉強会を開催。現在も月1回実施され、他区の先生方も参加して盛会です。

(e)文化活動

イ)美術展

年1回、毎年11月に開催しています。昭和63年11月より始まり、平成14年度は中止しましたが、平成15年11月は実施。会員やその家族の作品が多く出展されています。

ロ)一光流

昭和59年9月より都築彩道女史に10数人の会員及び家族の方が月1回、医師会内で教わっています。

この作品が又、美術展を飾った事は云うまでもありません。

ハ)書道

昭和63年12月より大橋健治郎先生に月2回指導を受けています。

ニ)ギター教室

平成4年12月12日より月2回、日曜日にプロギタリスト小野剛蔵先生にクラシックからポピュラー音楽まで幅広く教えて頂いています。

「くらぶ・あんだんて」の名でなにわ病院、特養あいぜん、丹比荘病院へそれぞれ年1～2回、訪問コンサートを

行っています。

(f)「和」

私達は先達より伝承して来ました「和而不同小人同而不和」をモットーとしてやり遂げて来ました。即ち「志ある君子は、私心がないから道理に順って和合しうるが、不合理なことに付和雷同しない。

小人は私利私欲があるため、利をみては雷同しやすく、条理に従って和合することはない」と考えて理解しています。心して拳拳服膺せねばならないと、常々事にあたっては思考の基本理念と思っています。それが医師会運営に継承され、この50年を過ごして来れたのだと思います。

これから先もこの伝統ある浪速区医師会を盛り立てて、胸をはって邁進してほしいと心から祈念してやみません。

(g)役員

過去に役員としてご努力頂いた方々を表4に列記します。



表 4. 歴代の浪速区医師会役員 (1)

役職/年	S37. 4. 1 ~ S39. 3. 31	S40. 4. 1 ~ S41. 3. 31	S43. 4. 1 ~ S45. 3. 31	S45. 4. 1 ~ S47. 3. 31	S47. 4. 1 ~ S49. 3. 31	S49. 4. 1 ~ S50. 3. 31	S50. 4. 1 ~ S53. 3. 31	S53. 4. 1 ~ S55. 3. 31	S55. 4. 1 ~ S57. 3. 31	S57. 4. 1 ~ S59. 3. 31
会 長	犬塚厚生	犬塚厚生	中山元雄	川合弘一	落合政明	落合政明	落合政明	川田義男	川田義男	川田義男
副 会 長	中山元雄	中山元雄	川合弘一 林 寅楠	落合政明 川田義男	林 寅楠 川田義男	林 寅楠 川田義男	林 寅楠 川田義男	春藤照繁 木下爲弘	春藤照繁 木下爲弘 菱川正夫	春藤照繁 木下爲弘 菱川正夫
理 事	川合弘一 池田良吉 庄司静枝 岡 恒喜 上原正員 林 寅楠 有田 満 菱川正夫 大谷 康 谷村久康	川合弘一 岡 恒喜 川田喜代子 菱川正夫 林 寅楠 島田甚晴 大谷 廉 落合政明 川田義男	島田甚晴 菱川正夫 落合政明 谷村久康 川田義男 古家敏夫 古家敏夫 春藤照繁 川田喜代子 徳田 修	菱川正夫 谷村久康 川田喜代子 音藤照繁 古家敏夫 徳田 修 木下爲弘 山口 泰 竹下三郎 上田富美子	菱川正夫 春藤照繁 川田喜代子 古家敏夫 徳田 修 木下爲弘 上田富美子 大谷 廉 花谷次郎 布施勝市郎 桑原千年	菱川正夫 本田正子 春藤照繁 川田喜代子 古家敏夫 徳田 修 山田道夫 上田富美子 花谷次郎 有田 満 布施勝市郎 桑原千年	菱川正夫 川田喜代子 春藤照繁 徳田 修 上田富美子 花谷次郎 山田道夫 布施勝市郎 桑原千年 山田道夫 本田正子 有田 満	菱川正夫 有田 満 徳田 修 上田富美子 花谷次郎 山田道夫 塩岡毅一 井上 薫 前田成納 竹下三郎 前野 薫 山口秀代 竹中秀裕 池田良彦	有田 満 上田富美子 花谷次郎 山田道夫 塩岡毅一 井上 薫 前田成納 竹下三郎 前野 薫 山口秀代 竹中秀裕 池田良彦	有田 満 上田富美子 花谷次郎 山田道夫 塩岡毅一 井上 薫 前田成納 小池誠雄 前野 薫 山口秀代 竹中秀裕 池田良彦
監 事	鈴木時之助 織田 勇	鈴木時之助 有田 満	鈴木時之助 麻生敏夫	中山元雄 岡 恒喜	岡 恒喜 安原 讓	岡 恒喜 川合弘一 木下爲弘	岡 恒喜 川合弘一 木下爲弘	岡 恒喜 川合弘一 林 寅楠 落合政明	岡 悦喜 林 寅楠	岡 恒喜 林 寅楠
議 長		麻生敏夫	岡 恒喜	林 寅楠	川合弘一	島田甚晴	島田甚晴	島田甚晴	落合政明	落合政明
副 議 長		谷村久康	有田 満	島田甚晴	島田甚晴	大谷 廉	大谷 廉	中埜吉章	安原 讓	安原 讓

表 4. 歴代の浪速区医師会役員 (2)

役職/年	S59. 4. 1 ~ S61. 3. 31	S61. 4. 1 ~ S63. 3. 31	S63. 4. 1 ~ H2. 3. 31	H2. 4. 1 ~ H4. 3. 31	H4. 4. 1 ~ H6. 3. 31	H6. 4. 1 ~ H8. 3. 31	H8. 4. 1 ~ H10. 3. 31	H10. 4. 1 ~ H12. 3. 31	H12. 4. 1 ~ H14. 3. 31	H14. 4. 1 ~ H16. 3. 31
会 長	川田義男	木下爲弘	木下爲弘	木下爲弘	木下爲弘	徳田 修	徳田 修	徳田 修	徳田 修	徳田 修
副 会 長	木下爲弘 有田満 前田成納	前田成納 徳田 修	前田成納 徳田 修	前田成納 徳田 修	徳田 修 竹中秀裕	竹中秀裕 工藤俊次郎	竹中秀裕 工藤俊次郎 桧山寛市	竹中秀裕 工藤俊次郎 森本靖彦	竹中秀裕 工藤俊次郎 森本靖彦	竹中秀裕 工藤俊次郎 佐久間靖博
理 事	上田富美子 花谷次郎 山田道夫 塩岡毅一 井上 薫 前野 薫 徳田 修 山口秀代 竹中秀裕 池田良彦 川合清毅	茨木健二郎 上田富美子 山田道夫 井上 薫 前野 薫 山口秀代 竹中秀裕 川合清毅 富永紳介 大畑垂穂 工藤俊次郎 桧山寛市	上田富美子 山田道夫 井上 薫 前野 薫 山口秀代 竹中秀裕 川合清毅 富永紳介 大畑垂穂 工藤俊次郎 桧山寛市 成田豊福 蔭山 充	上田富美子 井上 薫 前野 薫 竹中秀裕 川合清毅 工藤俊次郎 桧山寛市 成田豊福 森本靖彦 蔭山 充 池田良彦 池田良彦 宮原史郎 佐久間靖博	井上 薫 前野 薫 川合清毅 工藤俊次郎 桧山寛市 成田豊福 森本靖彦 蔭山 充 池田良彦 池田良彦 宮原史郎 佐久間靖博 大畑垂穂	井上 薫 上田富美子 川合清毅 桧山寛市 森本靖彦 小濱基郎 池田良彦 宮原史郎 佐久間靖博 福永州宏 入野忠芳 徳地孝一 藤吉理夫 澤井貞子	井上 薫 上田富美子 川合清毅 森本靖彦 池田良彦 小濱基郎 宮原史郎 佐久間靖博 福永州宏 入野忠芳 徳地孝一 藤吉理夫 澤井貞子 中村淳 原田直己 菱川秀夫	井上 薫 上田富美子 川合清毅 佐久間靖博 藤吉理夫 澤井貞子 原田直己 菱川秀夫 山崎雅裕 有田繁広 橋村直隆 太平野悟 川田信哉 野口左内	井上 薫 佐久間靖博 藤吉理夫 澤井貞子 原田直己 菱川秀夫 山崎雅裕 有田繁広 橋村直隆 太平野悟 川田信哉	井上 薫 藤吉理夫 澤井貞子 原田直己 菱川秀夫 山崎雅裕 有田繁広 橋村直隆 太平野悟 川田信哉 野口左内
監 事	岡 恒喜 春藤照繁	川田義男 岡 恒喜 有田満	川田義男 岡 恒喜	岡 恒喜 川田義男	岡 恒喜 川田義男 前田成納 上田富美子	川田義男 木下爲弘	川田義男 木下爲弘	川田義男 木下爲弘	木下爲弘 春藤照繁	木下爲弘 春藤照繁
議 長	落合政明	落合政明	落合政明	落合政明	落合政明	落合政明	落合政明	前田成納	川田義男	池田良彦
副 議 長	安原 譲	安原 譲	有田 満	有田 満	有田 満	前田成納	前田成納	池田良彦	池田良彦	桧山寛市